

令和 6 年 6 月 29 日現在

機関番号：32513

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02454

研究課題名（和文）子安講と育児におけるネットワークを基盤にした子育て実践モデルの開発

研究課題名（英文）Development of childcare practice model on based on childcare network on Koyasuko and childcare

研究代表者

東 亜紀（HIGASHI, AKI）

秀明大学・看護学部・准教授

研究者番号：80341874

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、A市で現行の子安講の実態を明らかにし、子安講と育児ネットワークの関連を分析し育児期女性の子育て支援モデルを開発することが目的である。子安講は、子安信仰が従来の観音講と結合・強化される場面と嫁等が安産を祈願し情報交換をすることで不安を解消する場としての機能があった。A市で現行の子安講を調査対象とし、育児をする女性の生活と信仰に焦点をおくことで、母親たちのつながりと、この地域で日常的・儀礼的な場面で重視されている人びとのつながりである「トナリ関係」が網の目のように広がっていた。しかし、子安講はコロナ禍で中止となり、A市の子安講の結集と維持に関して一次資料を収集するにとどまった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の社会的意義は、一つは、A市の子安講の実態を記録することであった。今一つは、子育てに関する情報を交換し、安産祈願に重要な役割を果たしていたとされてきた子安講が、地域の人びとの結集と維持とインフォーマル・ネットワークと関連して考えることで、地域特性を考慮した子育て支援の基礎資料が得られるはずであった。コロナ禍の影響でA市の子安講は姿を消してしまったが、引き続きデータを収集していくことで、人びとの紐帯が子育て家族を取り巻く包括的育児支援の隙間を埋める力になり、多様なニーズをもつ家族の理解とよりよい支援につながる可能性がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is Clarifying the actual situation of Koyasuko in City A and development of childcare practice model on based on childcare network on Koyasuko and childcare.

Koyasuko functioned as a place to relieve anxiety through the scenes where faith is strengthened, the safe birth of the wife, and information exchange. The target of the investigation was Koyasuko in City A, by focusing on the lives and beliefs of women raising children, the connection between mothers and the "Tonari kankei" that connect people were spread out like a web. However, Koyasuko was canceled due to the coronavirus pandemic, it's not enough to give an overview of the actual situation, only collected primary materials regarding the mobilization and maintenance of Koyasuko in City A.

研究分野：看護

キーワード：子安講 信仰 社会的ネットワーク 地縁関係 血縁関係

2023：成果報告書

タイトル：子安講と育児におけるネットワークを基盤にした子育て実践モデルの開発

英文：Development of childcare practice model on based on childcare network on

Koyasuko and childcare

研究成果の概要

和文：

本研究は、A市で現行の子安講の実態を明らかにし、子安講と育児ネットワークの関連を分析し育児期女性の子育て支援モデルを開発することが目的である。

子安講は、子安信仰が従来の観音講と結合・強化される場面と嫁等が安産を祈願し情報交換をすることで不安を解消する場としての機能があった。A市で現行の子安講を調査対象とし、育児をする女性の生活と信仰に焦点をおくことで、母親たちのつながりと、この地域で日常的・儀礼的な場面で重視されている人びとのつながりである「トナリ関係」が網の目のように広がっていた。しかし、子安講はコロナ禍で中止となり、A市の子安講の結集と維持に関して一次資料を収集するにとどまった。

英文：

The purpose of this research is Clarifying the actual situation of Koyasuko in City A and development of childcare practice model on based on childcare network on Koyasuko and childcare.

Koyasuko functioned as a place to relieve anxiety through the scenes where faith is strengthened, the safe birth of the wife, and information exchange. The target of the investigation was Koyasuko in City A, by focusing on the lives and beliefs of women raising children, the connection between mothers and the "Tonari kankei" that connect people were spread out like a web. However, Koyasuko was canceled due to the coronavirus pandemic, it's not enough to give an overview of the actual situation, only collected primary materials regarding the mobilization and maintenance of Koyasuko in City A.

研究成果の学術的意義や社会的意義：

本研究の社会的意義は、一つは、A市の子安講の実態を記録することであった。今一つは、子育てに関する情報を交換し、安産祈願に重要な役割を果たしていたとされてきた子安講が、地域の人びとの結集と維持とインフォーマル・ネットワークと関連して考えることで、地域特性を考慮した子育て支援の基礎資料が得られるはずであった。コロナ禍の影響でA市の子安講は姿を消してしまっただが、引き続きデータを収集していくことで、人びとの紐帯が子育て家族を取り巻く包括的育児支援の隙間を埋める力になり、多様なニーズをもつ家族の理解とよりよい支援につながる可能性がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	美濃口 真由美 (MINOGUCHI MAYUMI) (40817889)	秀明大学・看護学部・助教 (32513)	
研究分担者	茅島 江子 (KAYASHIMA KIMIKO) (70125920)	秀明大学・看護学部・教授 (32513)	
研究分担者	片桐 いずみ (KATAGIRI IZUMI) (30833925)	秀明大学・看護学部・専任助手 (32513)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関